

平成 24 年度 事業報告書

I 概要

「高岡市総合計画第2次基本計画」で、取り組む施策を「高岡市新世紀創造プロジェクト」としてとりまとめ、「歴史・文化」のテーマに掲げる「生涯学習体制の充実と新たな文化創造」を踏まえ、地域に根ざした芸術・文化活動の育成に向けて取り組んだ。

また、指定管理者制度に適切かつ柔軟に対応できる運営体制を目指すとともに、第3次指定管理期間の初年度でもあり、効率的な経営に努めた。

○ 文化施設等の適正な管理と利用の促進

利用者に安全・快適に施設を利用していただけるよう、施設管理に万全を期するとともに、利用者のニーズに沿った良質なサービスの提供に努めた。

○ 文化振興事業の展開

市の文化振興施策の方向を踏まえ、質の高い舞台芸術の創造事業や市民の芸術文化への関心を高める事業、市民ニーズに応える事業などを展開した。

- ・万葉歴史館では、春の特別企画展「万葉花ものがたり—桜—」を、7月には高志の国文学館開館に連動する形で夏の特別展示「造られた正倉院宝物—奈良女子大学所蔵正倉院模造宝物の世界—」を開催した。秋の特別企画展では、「万葉の切り絵—丸山幸一の手仕事—」を開催した。
- ・美術館では、調査研究活動に基づいて収集、保存、展示教育普及活動を行い、企画展示において10回の展覧会、常設展示室において3回のコレクション展を開催した。「日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展」では、広報、普及活動が奏功し歴代3位の観覧者数を記録した。(44,877人)
- ・博物館では、特別展「高岡の工芸資料—たかおか物産案内—」を実施した。
- ・市民会館では、9月の「オーケストラ・アンサンブル金沢高岡定期公演」では、OEK音楽監督・井上道義、ソプラノ歌手・森麻季、バス歌手・森雅史(高岡市出身)が出演した。12月には、夢幻能「月に憑かれたピエロ」を開催し、ソプラノ歌手・中嶋彰子、能楽師・渡邊荀之助らが伝統芸能に新たな風を吹き込んだ。3か年計画の最終年である「—未来創造プロジェクト—進化する森」は、平成25年2月に、新作初演の舞台公演「ドラマティック・ダンス『進化する森—森へおいで』」を披露した。
- ・カメラ館では、「希望」を共通テーマに第一線で活躍する写真家たちの企画写真展3本を季節に合わせて開催した。春には、日本の美しい風景を中心に紹介した「テラウチマサト写真展」、夏には、雲の表情などをとらえた「空の写真家HABU写真展」、秋には、国内外のミュージシャンを撮る写真家として知られる「ハービー・山口写真展」を前期・後期に分けて開催した。

II 各施設の事業内容

1 文化振興事業

事務局では、「第42回高岡市芸術祭」(期間:11月3日から11日まで)を高岡市芸術文化団体協議会(邦楽、洋楽、華道、茶道)及び高岡市美術作家連盟との協働により開催した。

2 万葉歴史館事業

企画展は、前年度に引き続き「越中国と万葉集」を実施している。春の特別企画展「万葉花ものがたり—桜—」では、万葉集にみられる桜の歌を紹介しながら、その美しい歌世界と桜の持つ文化的背景を、「四季の庭」で咲く桜とともに紹介する展示を行った。

7月に、高志の国文学館開館に連動する形で夏の特別展示「造られた正倉院宝物—奈良女子大学所蔵正倉院模造宝物の世界—」として、毎年「正倉院展」開催に合わせて奈良女子大学

で展示されている品々の展示を行い、また秋の特別企画展では、富山県を代表する彫刻家丸山幸一氏の切り絵作家としての活躍をクローズアップし、越中万葉を中心とした切り絵作品を紹介し、これまでとは異なる新たな来館者を獲得することができた。

学習講座は、「万葉集をよむ」・『日めくり万葉集』をよむ」・「大伴家持とともに」は継続開催し、昨年度まで「古代を学ぶ」と題して開催していた講座を「古代への招待」と改題して、県西部の古代史学習拠点となるべく内容を充実させた。また、新規に「はじめての万葉集」を開講し、より万葉の世界に親しんでもらう講座を実施することで、来館者増加を図った。さらに、平成20年度より富山大学で館長や研究員が万葉に関する講義を実施しているが、本年度からは前学期の共通教養科目を「総合科目特殊講義（万葉学）」として開講することとなった。そして、昨年より実施している学校移動展示「越中万葉パビリオン」と、宮城県多賀城市での「全国万葉フォーラム」及び島根県江津市での「全国万葉フェスティバル」で越中万葉移動展示を行うことで、より越中万葉に親しんでもらうことができた。

出版事業では、「高岡市万葉歴史館紀要」第23号、同叢書「聖武天皇の時代」を出版した。高岡市万葉歴史館論集については、本年度は少し趣向を変えて、一般読者向けの越中万葉入門書として「越中万葉をたどる」を刊行した。

“万葉を愛する会”では、「全国万葉フェスティバル」参加のために万葉故地の一つである島根県への万葉故地めぐりバスツアーを開催し、好評を博した。

来館者に対しては、わかりやすく万葉の世界を伝え、館内を案内するために「和草」と称するボランティア説明員が活躍しているが、本年度からは、学校からの団体客を中心に、研究員が万葉衣装を身につけての案内を実施することで、さらなる来館者増加を目指した。

3 美術館事業

美術館では、郷土の美術・工芸の研究成果を収集・保存・展示に生かし、美術館活動の普及のために広範な教育活動を行っている。

平成24年度は、6月から7月に「水野美術館所蔵 華ひらく近代日本画 一大観、春草から現代まで一」を開催。学芸員が各種団体向けのレクチャーを行い、またほぼ毎週日本画家によるギャラリートークを実施、鑑賞の一助となる工夫をこらした。

7月から9月には、日本のアニメーション美術の創造者「山本二三展」～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女～を開催した。新聞社との連携により活発な広報活動を展開し、ワークショップやギャラリートーク（4回）など教育普及活動により、入場者は44,877人（リニューアル以来第3位）を記録した。

9月には森村泰昌モリエナーレ／まねぶ美術史を開催し、若き日に影響を受けた国内外の美術作品と、そのスタイルを真似て森村さん自身が制作した絵画や写真などを並べて展示し、“世界のモリムラ”として成功するまでの、挫折をふくめた成長過程を約120点で紹介した。

恒例の展覧会として開催している高岡市民美術展についても、シニアから現役高校生まで、幅広い層の市民から約400点の出品を受け、それぞれの日々の研鑽の成果を発表する場として好評を得た。

常設展においては、テーマに沿って展示替えを行い、「ものづくり・デザイン科」を学ぶ児童・生徒たちへの教育普及、郷土美術工芸史の上で欠かせない作家の紹介などを行った。

なお、平成22年度から実施している「収蔵品台帳整備及び図録作成」事業に引き続き取り組み、全収蔵品を掲載する図録を発行し、作品の状態点検を推進した。

4 博物館事業

展示事業としては、館蔵品展「新資料展」（4月1日～5月6日）を開催し、近年の収蔵資料や、日ごろ公開の機会が少ない資料を紹介した。ミニ企画展「むかしの人はどんな道具を使

っていたの？」(6月2日～17日)では、当館が収蔵する民俗資料を展示・紹介した。常設展「高岡ものがたり」(通年開催)では、高岡の歴史・民俗・産業の分かりやすい紹介に努め、団体見学への展示解説等を行った。また、特別展「高岡の工芸資料―たかおか物産案内―」では、金工、漆芸、陶芸に関する資料を展示・紹介した(7月28日～10月14日)。館蔵品展「未来へつなぐ高岡のお宝―新収蔵品を中心に―」(2月9日～3月31日。次年度5月6日まで開催予定)では、近年の収蔵資料や日ごろ公開の機会が少ない資料を紹介した。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座「高岡ならでは話」、「初めての古文書教室」(全6回)、館職員によるショートレクチャー「土曜おもしろ講座・高岡のみじかい話」(全11回)を開催した。また、呈茶の会「松聲庵―博物館で抹茶を楽しみませんか―」(春・秋)、桜の時期に合わせた屋上開放「古城公園展望台」、児童生徒を対象としたワークショップ「切り紙でシシガシラをつくろう!」「たかおか歴史探検隊! きみも1日学芸員になってみよう」を開催した。そのほか、資料貸与等協力、レファレンス対応、講師・委員の派遣協力も行った。

資料収集・保存活動では、歴史・民俗・産業にかかる資料の収集・保存に努めた。調査研究活動では、平成22年度10月より継続中の「デジタルアーカイブ推進事業」において、全資料の概略調査(調査・整理・撮影・台帳作成等)を行なった(3月末現在。約2,600件)。10月18日より「収蔵資料検索システム―あなたの家が博物館―」の運用を開始した。随時、博物館資料の調査情報をデジタル化し、資料情報の公開を進めている。また、職員の知識・技術向上を図るため、県内外への研修にも参加した。

3月6日には、博物館の活動を支援するほか、高岡の歴史と文化に親しみ、相互に親睦を図ることを目的に「高岡市立博物館に親しむ会」が発足した。

5 市民会館事業

4月に開催した「ラ・フォル・ジュルネ金沢『熱狂の日』音楽祭2012in高岡」は、瑞龍寺仏殿前ではイルクーツク五重奏団が、ウイング・ウイング高岡では池辺晋一郎、水上由美らがロシア音楽の魅力を紹介した。(入場者数521人)

7月には、市内小学校4年生約1,460名を対象に、子供たちが本格的なクラシックの演奏に触れ、また、コンサートにおけるマナーを身に付けることを目的としている「10才のファーストコンサート」を開催した。

9月の「オーケストラ・アンサンブル金沢高岡定期公演」は、指揮者にオーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督の井上道義を迎えてベートーヴェンの「田園」を演奏したほか、ソプラノ歌手の森麻季、バス歌手の森雅史(高岡市出身)が美しいアリアの数々を披露し、入場者から好評を博した。(入場者数751人)

12月には、夢幻能「月に憑かれたピエロ」を開催した。シェーンベルクの名曲『月に憑かれたピエロ』と日本の能とのコラボレーションであり、世界的なソプラノ歌手・中嶋彰子、宝生流の重鎮・渡邊荀之助ら一流の演者が伝統芸能に新たな風を吹き込んだ。(入場者数 プレトーク100人、本公演300人)

同じく12月に開催した「おでかけクラシック2012inたかおか」は、弦楽及びサクソフォーンの各カルテットが、市内小学校や特別支援学校、病院でアウトリーチ活動を展開してクラシック音楽の普及に努め、本公演では親しみやすい曲から本格的な曲まで、幅広い曲目を披露した。(入場者数200人)

さらに、12月には「東京交響楽団クリスマスコンサート」も開催し、指揮者に現田茂夫、ソリストに高岡市出身の堀正文(ヴァイオリン)を迎え、モーツァルトの名曲や季節感あふれる楽曲でクリスマスにふさわしいコンサートとなった。(入場者数1,002人)

「―未来創造プロジェクト―進化する森」は、高岡の新しい文化を創造し古城の森から発信することを目的とした3か年計画の最終年であり、メインキャストオーディションやワークショップを経て、平成25年2月に、高橋知伽江の脚本、八幡茂の楽曲による新作初演の舞台

公演「ドラマティック・ダンス『進化する森一森へおいで』」を披露した。(入場者数1,145人)

公共ホール現代ダンス活性化支援事業は、ダンスアーティスト・新井英夫(地域創造登録アーティスト)と打楽器奏者のパトリック・グラハムを中心に、2月に市内小学校でのアウトリーチを実施し、本公演「Gravity」では、音や光を活用した舞台を披露し、コンテンポラリーダンスの魅力を紹介した。(入場者数96人)

「ホール活性化事業」では、市民会館ホールサポーターの会「パープル」が主体となり、9回のサロンコンサートを開催した。サロンコンサートは、市民が気軽に音楽を楽しむ場として定着している。また、舞台に反響板を設置しての本格的なコンサートピアノ演奏体験も、スタインウェイ製のピアノを演奏できる機会として好評を博している。

また、市民会館共催事業として、新緑の5月に「第2回みんなで歌おう高岡『第九』公演」を開催し、合唱団員、ソリスト、オーケストラが心をつなげて、鋳物師の作業唄「えんやしゃやっしやい」(新作初演)とベートーヴェンの「第九」を披露し、大盛況のうちに終了した。

なお、市民会館ホールにおける公益目的事業の利用は、全国高等学校総合文化祭(合唱部門)、みんなで歌おう高岡「第九」練習及び本公演、コンドルズワークショップ、サロンコンサート等で92回、入場者数18,205人であった。また、一般へのホール貸与(収益事業等)は、吹奏楽の演奏会等で93回、入場者数48,468人であった。

6 青年の家事業

心身ともに健全な青年の育成を図るため、生涯学習の一環として、「青年文化教室」、「現代教養講座」、「若者交流支援事業」を実施した。

「青年文化教室」では、従来から行っている華道(3教室)、茶道(2教室)、着付け(2教室)、ボールペン習字の各教室に加えて、マットピラティス、ビューティエクササイズの10教室を開催した。「現代教養講座」では、初心者を対象に韓国語と中国語の教室を、外国人講師により各8回開催した。「若者交流支援事業」では、リーダー研修会(講演会)を開催した他、要望の多いゴルフ教室8回、ビリヤード教室4回を、いずれもプロの講師による実技指導の下で開催し、スポーツやレクリエーションを通して若者の交流を図った。

なお、青年の家における公益目的事業の利用は、青年文化教室や現代教養講座などで128回、利用人数934人であった。能舞台や研修室など、諸室の一般への貸与(収益事業等)は、2,226回、利用人数22,777人であった。

7 ミュゼふくおかカメラ館事業

企画写真展では第一線で活躍する写真家3氏の写真展を共通テーマ「希望」を掲げて開催した。春は富山県出身の写真家であり、同年夏の全国高等学校総合文化祭富山大会審査委員長を務めたテラウチマサト氏が、日本の美しい風景を独自の世界観で作り上げた。夏は空の写真家HABU氏がベスト150点を紹介し、数度のトークショーや市美術館「山本二三展」とのタイアップなどに取り組み、若い世代を中心に全国から多数の来館者を得た。秋は幅広い世代で人気を博すハービー・山口氏の二十歳の頃の作品シリーズを前期、ロンドン及び日本の若者やアーティストをとらえたシリーズを後期に分けて展開、一貫して希望を根底とする郷愁溢れる写真世界に多くの来館者から感嘆の声が寄せられた。

カメラ常設展では「戦前・戦後日本のカメラメーカーたちの挑戦」と題し、メーカー別によるⅠ期、年代別によるⅡ期に分けて取り組み、わかりやすい展示を目指した。また、収蔵資料の台帳整備とデータ化作業を継続し、一層の充実を図った。

教育普及事業では、写真家たちによるギャラリートーク、ニッコールフォトコンテスト入賞作品展を開催し、全国レベルの技術や表現を知る機会を提供した。また、館長による写真教室や講師・審査員派遣、県内の写真活動団体や学校等の協力を得て「写真力って不思議

議一第1回ワンダーフォト写真展」などに取り組むなど、地域の写真文化の活性化と若い世代の育成を目指した。

企画展「カメラと写真+α」では、報道写真の先駆者として知られる名取洋之助にスポットを当て、時代と対峙した名取の仕事を紹介しながら日本カメラ博物館が所蔵する写真作品140点を展示、歴史的なカメラ・写真資料を多数有する同館とのネットワークをさらに深めることができた。

8 動物園事業

動物の飼育展示のほか、「ふれあい広場」、動物園まつり、特別展、動物園だよりの発刊等の事業を実施した。

「ふれあい広場」は、ウサギやテンジクネズミ等の小動物に直接触れることができるもので、来園者から好評を得ている。

レクリエーション施設としての機能はもちろんのこと、情操教育の場として動物愛護の啓発や情報発信、種の保存に努めた。

Ⅲ 評議員会に関する事項

1 審議内容

(1) 第1回評議員会 平成24年5月23日開催

議案第1号	議長の互選について	可決
議案第2号	平成23年度事業報告について	可決
議案第3号	平成23年度決算の承認について	可決
議案第4号	理事の選任について	可決

(2) 第2回評議員会 平成25年3月15日開催

議案第5号	理事の選任について	可決
-------	-----------	----

2 評議員の異動状況

平成24年4月1日	評議員	荒井	公夫	就任
	評議員	石丸	昌之	就任
	評議員	江沼	修	就任
	評議員	大澤	幸勝	就任
	評議員	竹内	浩子	就任
	評議員	竹田	貞郎	就任
	評議員	樽谷	雅好	就任
	評議員	豊本	治	就任
	評議員	鍋谷	武	就任
	評議員	前田	一樹	就任
評議員	山崎	健	就任	

Ⅳ 理事会に関する事項

1 審議内容

(1) 第1回理事会 平成24年5月18日開催

議案第1号	平成23年度事業報告について	可決
議案第2号	平成23年度決算の承認について	可決

- 議案第3号 第1回評議員会の招集について 可決
- (2) 第2回理事会 平成24年6月1日開催
議案第4号 副理事長（代表理事）の選定について 可決
- (3) 第3回理事会 平成24年10月17日開催
報告第1号 平成24年度上半期に係る事業の執行状況について
議案第5号 平成24年度補正予算（第1号）の承認について 可決
- (4) 第4回理事会 平成24年12月20日開催
報告第2号 高岡市公の施設に係る指定管理者の決定について
議案第6号 平成24年度補正予算（第2号）の承認について 可決
- (5) 第5回理事会 平成25年3月22日開催
議案第7号 平成24年度補正予算（第3号）の承認について 可決
議案第8号 平成25年度事業計画の承認について 可決
議案第9号 平成25年度予算の承認について 可決
議案第10号 専務理事の選定について 可決

2 理事及び監事の異動状況

- (1) 平成24年4月1日
- | | | |
|------|-------|----|
| 理事 | 小山 豊 | 就任 |
| 理事 | 坂本 信幸 | 就任 |
| 理事 | 高橋 正樹 | 就任 |
| 理事 | 辻 やす子 | 就任 |
| 理事 | 永田 義邦 | 就任 |
| 理事 | 秦 正徳 | 就任 |
| 理事 | 氷見 哲正 | 就任 |
| 理事 | 廣田 義保 | 就任 |
| 理事 | 細呂木六良 | 就任 |
| 理事 | 山田 哲 | 就任 |
| 理事長 | 高橋 正樹 | 就任 |
| 副理事長 | 氷見 哲正 | 就任 |
| 専務理事 | 山田 哲 | 就任 |
| 監事 | 岩坪 正人 | 就任 |
| 監事 | 廣嶋 律子 | 就任 |
- (2) 平成24年5月23日 理事 嶋 耐司 就任
- (3) 平成24年6月1日 副理事長 嶋 耐司 就任
- (4) 平成25年3月31日 理事 山田 哲 辞任